



2014～2015年度

中津平成週報

Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2014～2015年度
国際ロータリー・テーマ
ロータリーに輝きを
Light Up Rotary

国際ロータリー会長
ゲイリー C.K. ホアン

国際ロータリー2720地区 中津平成ロータリークラブ

会長 梶原 清二 幹事 川崎 潤 会報担当 中島 宏一郎 クラブ広報委員長 中島 宏一郎

例会日/毎週木曜日 12:30

例会場/グランプラザ中津ホテル TEL 0979-24-7111

事務局/〒871-0055 中津市殿町1383の1 中津商工会館2F

TEL 0979-22-9716 FAX 0979-22-9722

e-mail office@n-heisei.org

<http://www.n-heisei.org/>

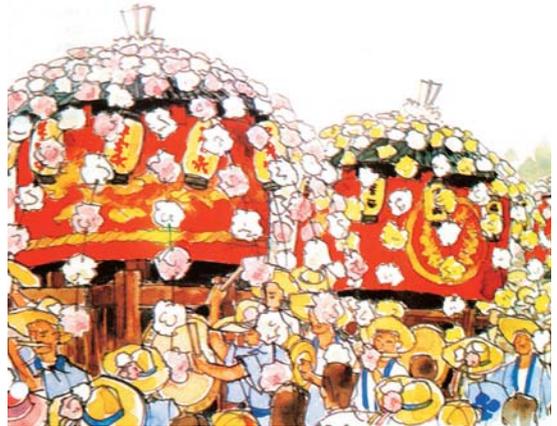
第1197回例会 平成27年1月29日(木)

●本日の例会プログラム 「勤労者福利厚生サービスについて」

中津市役所商工振興課

グランプラザ中津ホテル

◎次回例会プログラム



前回(1196回例会)の記録

平成26年1月22日(木)

■ゲスト

有限会社増矢桐箱

専務取締役 増矢義弘氏

■ビジター

■出席報告

会員数 24名

免除者数 2名

対象者数 22名

本日出席者 14名

欠席者数 8名

出席率 63.64%

■1195回出席報告の修正

1195回欠席者 3名

メイクアップ 1名

欠席者 2名

修正出席率 86.36% → **90.91%**

●メイクアップ

矢頭会員(中津中央1/6)

●欠席者

初倉会員・渡邊会員

◎ロータリーソング それでこそロータリー

◎会長の時間 梶原会長

イスラム国に2人の日本人が拉致されました。平和主義日本にもテロの手が伸びてきました。

2億ドルもの大金を72時間内に拠出せよさもなくば人質の命はない。

インターネットを通しての脅迫、こんな時代になったんだなーと情報化時代の便利さと怖さを痛感させられました。

さて、話は変わりますが先週の例会終了後の理事会でロータリー情報を委員会報告の時間をさいて流しましょうということになりました。二反田会員と若松会員にお願いしました。

お二人とも2月12日まで例会出席できないとのことでしたので、急遽、辛島会員にお願いいたしました。

ロータリーも原点に帰って勉強なおすのもいいことではないでしょうか。



◎幹事報告 川崎潤幹事

●週報受理 熊本平成RC 中津RC

●会報受理 中津沖代ライオンズクラブ

●幹事報告

・中津中央RCより2月例会プログラム

・中津RCより2月例会プログラム

・地区大会のご案内

・ロータリアン誌(英文)2月号

・ガバナーノミニー決定のご案内

・ガバナーノミニー・デジグネート候補者推薦について



◎本日のメニュー





2014～2015年度

中津平成週報

Rotary Club Of Nakatsu Heisei

2014～2015年度
国際ロータリー・テーマ
ロータリーに輝きを
Light Up Rotary

◎その他報告事項

・辛島会員

本日の例会より、ロータリー情報をお届けします。来月にロータリーが発足してからちょうど110周年になります。本日は、ポールハリスが3名の友人と創設したこのロータリーの成り立ちをお伝えします。

梶原会長からのご依頼があり、ロータリー情報を皆様にお話することになりました。

今日、1月22日と来週1月29日と再来週2月5日の3回分を私が担当することになりました。

さて、第1回は「ロータリーの創立」についてお話ししようと思います。

1905年2月23日、アメリカはイリノイ州シカゴ市デアボン街のユニティビル711号室に4人の紳士が集まりました。弁護士のパール・ハリス、石炭商のシルベスター・シール、鋳山技師のガスターバス・ローア、洋服商のハイラム・ショーレーです。

1905年(明治38年)と言えば日本では、日露戦争まっただ中です。1月に203高地が落ち、続いて旅順を落とし、3月に遼東会戦に辛くも勝利し、5月に日本海海戦で大勝したころです。

これが記念すべき第1回のロータリークラブの例会です。その2週間後に第2回例会がありました。

このころ、シカゴは荒れていて商業道徳など無く不良品を買ったとしても買った方が悪い。売ってしまえば商人の勝ち。だまされる方が悪いという状態でした。

ポールは友人たちと商売上の扶助すなわち仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたいという趣旨でロータリークラブという会合を考えていました。今の職業奉仕の始まりですが、かなり現在の考え方は異なります。

現在世界中の200以上の国で、クラブ数34,558、会員総数1,220,115人に達しています。そして地区の数は537、ゾーンの数は34です。また、一つの地区は75クラブ以上、2700人以上が望ましいとしています。日本では、東京クラブが1920年10月20日に世界で855番目に創立されました。現在日本全体でクラブ数2278クラブ、会員数88,915人です。これはピーク時の約3分の2に当たります。当2720地区から杉谷卓紀パストガバナーがRI理事として出ておられます。日本からはかつては理事2人でしたが、今は会員数の減少で1.5人つまり2年間は2人、次の2年間は1人ということとなっております。

◎ニコニコボックス 担当：会員増強退会防止委員会

〔長野定生会員〕先週は、研修のためお休みしました。

〔川崎幹事〕先週は、ゴルフ合宿のためお休みしました。帰りの便で合流するはずの妻と天候不順のため夕方まで福岡空港に足止めされてしまいました。



〔加来会員〕増矢さん、本日はよろしくお祈いします。先日からプロジェクターの調子がおかしかったので、プロジェクターをニコニコいたします。

〔長野修会員〕先日、ダイハツアリーナで開催されましたテコンドーの大会に応援いただきありがとうございました。

〔梶原会長〕増矢さん、本日はよろしくお祈いします。

〔土居会員〕増矢さん、本日はよろしくお祈いします。お話を楽しみにしております。

◎ゲスト卓話

「桐箱について」

有限会社増矢桐箱 専務取締役
増矢義弘氏

増矢桐箱は、増矢氏の祖父が昭和5年に創業され、現在はお兄様の大介氏が3代目となっております。

増矢氏は、大学生の頃に帰省の度に家業のお手伝いをされていた時に桐箱の作成の魅力に出会い、桐箱の作成は勿論のこと全国各地で営業もされておられるとのこと。

また、桐箱を作製される工程のお話の中で、材料の調達について、以前は国内での材木を使用していたのですが、最近では中国やアメリカ産の桐も使用されているとのこと。現在では、ブランド材でもある会津桐等の高級品も作製されているとのこと。海外の材料を調達するので、現地に赴きしっかりと原材料の品質管理を徹底しなければ良質の桐箱が作りにくいのが難点だそうです。また、お爺様の代では有田焼や萩焼の陶器の箱が主でしたが、最近ではお線香の箱や筆・お菓子・和牛など贈答品に付加価値をつけるための箱の作製も多くなってきたとのこと。桐箱は基本的にオーダーメイドですので、手作業での制作になるとのこと。手作業故に大量生産の大変さや製品の品質管理のお話もいただきました。今後は、職人さんたちの育成が急務とのこと。また、原材料が輸入されている関係上、円相場の変動が大きく影響されるとのこと。しかし、現在では中国の賃金や物価の上昇に伴い、国内での生産にシフトされる業者も多くなってきているとのことでした。

